

作成日 2018年10月9日

改定日 2019年5月16日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 HOUN 床用プライマー (東日本)
主な用途 モルタル用吸水調整材
会社名 株式会社 豊運
住所 大阪市東住吉区今川 3 - 12 - 4
担当部門 技術本部
電話番号 0494-62-5545
FAX番号 0494-62-5345
緊急時の連絡先 (東日本営業部) 福島県石川郡平田村大字西山字水尾 111 - 3 電話番号 0247 - 54 - 3232

製品番号 E-1714

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

爆発物	分類対象外
可燃性・引火性ガス	分類対象外
可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
支燃性・酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	区分外
可燃性固体	分類対象外
自己反応性化学品	分類できない
自然発火性液体	区分外
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	分類対象外
水反応可燃性化学品	分類対象外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類対象外
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない

健康に対する有害性

急性毒性 (経口)	分類できない
急性毒性 (経皮)	分類できない
急性毒性 (吸入: ガス)	分類対象外
急性毒性 (吸入: 蒸気)	分類できない
急性毒性 (吸入: 粉塵)	分類できない
急性毒性 (吸入: ミスト)	分類できない
皮膚腐食性・刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性	分類できない
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	区分 1
生殖毒性	区分 1A
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	分類できない
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	分類できない
吸引性呼吸器有害性	分類できない

環境に対する有害性

水生環境有害性 (急性)	分類できない
水生環境有害性 (長期間)	分類できない
オゾン層への有害性	分類できない

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

発がんのおそれ
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

注意書き

【安全対策】

使用前に取扱説明書を入手すること。
 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 保護手袋/保護衣/保護長靴/保護眼鏡/保護面を着用すること。
 取り扱い後は手・顔・口をよく洗うこと。

【応急処置】

特別な処置が必要である。(項目4. 応急措置を参照)

【保管】

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物/容器を国・都道府県・市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分： 混合物

成分名	CAS No.	官報公示整理番号 (化審法)
(メタ)アクリル酸エステル共重合体	登録済み	6 - 624
スチレン・(メタ)アクリル酸エステル共重合体	登録済み	登録済み
エタノール	64-17-5	2-202
水	7732-18-5	-

- ・特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律
 (化学物質排出把握管理促進法)の第1種指定化学物質及び第2種指定化学物質には該当しない。
- ・労働安全衛生法： 通知・表示対象物： エタノール

ホルムアルデヒド放散等級自主制度による登録番号

日本接着剤工業会 (JAIA) 登録	
登録番号	JAIA-013085
放散等級区分	F☆☆☆☆
問合せ先	http://www.jaia.gr.jp

4. 応急処置

眼に入った場合： 清浄な水で15分間眼を洗浄した後、医師の診察/手当てを受けること。
 皮膚(又は髪)に付着した場合： 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
 吸入した場合： 蒸気、ガスなどを吸入して、気分が悪くなった場合、直ちに空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。速やかに医師の診断/手当てを受け口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに医師に連絡すること。
 飲み込んだ場合：

ばく露又はばく露の懸念がある場合： 医師の診断/手当てを受けること。
 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
 気分が悪いときは医師に連絡し、医師の診断/手当てを受けること。

5. 火災時の措置

消火剤： 水、強化液、泡消化剤、粉末消化剤、ハロゲン化物消化剤
 消火方法： 自体には可燃性は無いが、水分が蒸発後の乾燥物は可燃性であり、燃焼時は火元への燃焼源を断ち、消化剤で消火する。
 消火作業は風上から行い、延焼の恐れのないよう周辺を水スプレーで冷却する。
 消火を行う者の保護： 適切な保護具(耐熱性衣類など)を着用する。

6. 漏出時の措置

漏出時にはできるだけ粉体の状態で回収する。

人体に対する注意事項： 作業時は適切な保護具(保護靴、保護手袋、保護眼鏡)を着用する。
 環境に対する注意事項： 流路を土嚢等で堰き止め、河川、湖沼への流出を防ぐ。河川、湖沼へ流入した場合は、必要に応じ、警察署、消防署、都道府県市町村の公害関連部署、河川管理局、水道局、農協・漁業等に直ちに連絡する。
 除去方法： 多量流出の場合はバキューム等で汲み上げ、又少量流出の場合はおが屑、土砂、パーライト等を混ぜたモルタル状として凝固回収する。
 二次災害の防止策： 漏出した場所の周辺にロープ等を張り、作業員以外の立ち入り禁止措置を取る。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

取扱者のばく露防止： 眼・皮膚等への接触を避けるために、適切な保護具(保護手袋・保護衣・保護長靴・保護眼鏡・保護面)を着用する。
 局所排気・全体排気： 手洗い、洗顔、うがい等の設備を設ける。
 取り扱う場合は、換気の良い所で行う。

安全取扱注意事項

取り扱い後は手・顔・口を水洗いする。
 破袋等に繋がる粗暴な取り扱いをしない。

残液、洗浄に使用した水は下水に流さないようにし、廃棄上の注意の項を参照して適切に処理する。

保管

安全な保管条件

技術的対策：	皮張り防止のため容器を密閉して保管する。
混触禁止物質：	なし。
適切な保管条件及び避けるべき保管条件：	凍結、直射日光を避け、5～35℃の屋内で保管する。
推奨する安全な容器包装材料：	水含有製品の為、ポリ容器、内面ポリマーコーティングした容器等。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度： (エタノール)	設定されていない。
許容濃度： (エタノール)	日本産業衛生学会（2009年） 設定されていない。 ACGIH(2009年度)： STEL 1000ppm
設備対策：	屋内で取り扱う場合は、局所排気装置又は全体換気装置を設置することが望ましい。スプレー等の使用で飛散する可能性がある場合はその対策をとる。

保護具

呼吸器用保護具：	簡易マスク
手の保護具：	不浸透性保護手袋
眼の保護具：	保護眼鏡（普通眼鏡型・側板付き 普通眼鏡型・ゴーグル型）
皮膚及び身体の保護具：	保護長靴・保護衣・保護面

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

形状：	液体
色：	乳白色
臭い：	微アクリル臭
pH：	8～9（水で50%希釈）
沸点：	約100℃
融点：	約0℃
引火点：	なし。
発火点：	なし。
爆発特性：	データなし。
密度：	約1.1g/cm ³
溶媒に対する溶解性：	水に無限大に希釈可能
粘度（粘度率）：	100mpa・s

10. 安定性及び反応性

反応性：	一般的な貯蔵・取扱いにおいて安定である。
危険有害反応可能性：	知見なし。
避けるべき条件：	凍結させないこと。
危険有害な分解生成物：	なし。

11. 有害性情報

(混合物の有害性情報)

急性毒性	経口	：	データなし
	経皮	：	データなし
	吸入	：	データなし
皮膚腐食性・刺激性	：	：	データなし
眼に対する重篤な損傷・刺激性	：	：	データなし
呼吸器感作性	：	：	データなし
生殖細胞変異原性	：	：	データなし
発がん性	：	：	データなし
生殖毒性	：	：	データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	：	：	データなし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	：	：	データなし
吸引性呼吸器有害性	：	：	データなし

化学物質の有害性情報

エタノール

急性毒性

経口： ラットのLD50値=6,200mg/kg、11,500mg/kg、17,800mg/kg、13,700mg/kg (PATY(6th,2012))、15,010mg/kg、7,000-11,000mg/kg (SIDS(2005))

経皮： ウサギのLDLo=20,000mg/kg (SIDS(2005))

吸入： ラットのLC50=63,000ppmV (DFGOT vol.12(1999))、66,280ppmV(124.7mg/L) (SIDS(2005))

皮膚腐食性／刺激性：

ウサギに4時間ばく露した試験、(OECD TG 404)において、適用1および24時間後の紅斑の平均スコアが1.0、その他の時点では紅斑及び浮腫の平均スコアは全て0.0である、「刺激性なし」の評価(SIDS(2005))

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：

ウサギを用いた2つのDraize試験(OECD TG 405)において、中等度の刺激性と評価されている。(SIDS(2005))。このうち、1つの試験では、所見として角膜混濁、虹彩炎、結膜発赤、結膜浮腫が見られ、第一日の平均スコアが角膜混濁で1以上、結膜発赤で2以上であり、かつほとんどの所見が7日以内に回復した(ECETOC TR 48(2)(1998))。

呼吸器感作性：

データなし。

皮膚感作性：

ヒトでは、アルコールに対するアレルギー反応による接触皮膚炎等の症例報告がある。(DFGOT vol.12(1999))

生殖細胞変異原性：

in vivo、in vitroの陰性結果あるいは陰性評価

発がん性：

エタノールはACGIHでA3に分類。(ACGIH(7th,2012))またIARC(2010)では、アルコール飲料の発がん性について多くの疫学データから十分な証拠がある。

生殖毒性：

妊娠マウスの器官形成期に吸入ばく露した試験において、胎児吸入、脳脱出などが見られ、[PATY(5th,2001)]、さらに別の吸入または経口ばく露による試験でも口蓋裂を含め、同様の結果が得られている。[EHC 196(1997)、DFGOT vol.6(2001)]

特定標的臓器毒性(単回ばく露)：

ヒトの吸入ばく露により眼及び気道への刺激症状が報告されている。(PATY(6th,2012))血中エタノール濃度の上昇に伴い、軽度の中毒(筋協調運動低下、気分、性格、行動の変化から中等度の中毒(視覚障害、感覚麻痺、反応時間遅延、言語障害)、さらに重度の中毒症状(嘔吐、嗜眠、低体温、低血糖、呼吸抑制など)を生じる。さらに、呼吸または循環不全により、あるいは咽頭反射が欠如した場合には胃内容物吸引の結果として死に至ると記述されている。(PATY(6th,2012))ヒトに加えて実験動物でも中枢神経系の抑制症状が見られている。(SIDS(2005))。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)：

ヒトのアルコール長期大量摂取はほとんど全ての臓器に悪影響を及ぼすが、最も強い影響を与える標的臓器は肝臓であり、障害は脂肪変性に始まり、壊死と線維化の段階を経て肝硬変に進行する(DFGOT vol.12(1999))との記載に基づき区分1(肝臓)とした。またアルコール乱用及び依存症がある。(HSDB (Access on june 2013))。動物実験では有害影響の発現はさほど顕著ではなく、ラットの90日間反復の影響として脂肪変性が報告されている。(SIDS(2005)、PATY(6th,2012))

吸引性呼吸器有害性：

データなし。

水生環境有害性(急性)：

藻類(クロレラ)の96時間EC50=1,000mg/L(SIDS,(2005))、甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50=5,463mg/L(ECETOC TR 91(2003))、魚類(ニジマス)の96時間LC50=11,200ppm(SIDS(2005))より、藻類、甲殻類及び魚類において100mg/L

水生環境有害性(長期間)：

慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり、(BODによる分解度：89%(既存点検、1993))甲殻類(ニセネコミジンコ属の一種)の10日間NOEC=9.6mg/L(SIDS(2005))

オゾン層への有害性：

データなし。

12. 環境影響情報

(混合物の環境影響情報)

水性環境急性有害性：	データなし。
水性環境慢性有害性：	データなし。
生態蓄積性：	データなし。
移動性：	水域へ移動する可能性がある。
オゾン層への有害性：	データなし。
(エタノール)	
エタノールの危険有害性情報を参照	

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物：	処理等を外部の業者に委託する場合は、都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者に産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して委託し、関係法令を遵守して適正に処理する。焼却する場合は、大気汚染防止法、廃掃法、ダイオキシン類対策特別措置法及び都道府県市町村条例等に適合する焼却設備を用いて行う。
--------	--

汚染容器及び包装：	内容物を完全に除去した後に産業廃棄物として処分する。 都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。
-----------	--

14. 輸送上の注意

輸送に関する規制及び分類に関する情報

陸上：	消防法・労働安全衛生法・毒物及び劇物取締法に該当する場合は、それぞれの該当法律に定められるところに従うこと。
海上：	船舶安全法に定められるところに従うこと。
航空：	航空法に定められるところに従うこと。
国連番号：	該当しない。

輸送の特定の安全対策

及び条件：破袋、損傷、容器・包装からの漏出、転倒、落下等の荷崩れ防止を確実に行う。

15. 適用法令

- ・労働安全衛生法〔表示対象物質・通知対象物質〕：エタノール
- ・化学物質排出把握管理促進法（PRTR制度）：第一種・第二種指定化学物質に該当しない。
- ・毒物及び劇物取締法：該当しない。
- ・消防法：該当しない。

16. その他の情報

参考文献：	JIS Z 7253「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート（SDS） 化学工業日報社「化審法化学物質」 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター GHSモデルSDS情報
-------	---

本データシートは JIS Z 7253〔GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示および安全データシート（SDS）〕に準じて作成しており、製品の安全な取扱いを確保するための「参考情報」として、現時点では当社の有する情報を取扱事業者にご提供するものです。記載内容は、現時点で入手できた資料・情報・データなどに基づいて作成したものであり、新しい知見によって改訂されることがあります。本データシートは必ずしも製品の安全性を保証するものではなく、当社が知見を有さない危険性、有害性を持つ可能性があります。取扱事業者は本データシートを参考として個々の取扱い、用途・用法などの実態に応じた安全対策を実施のうえ、お取り扱いください。

